

水荷浦の人々が 400 年来築き上げてきた 天空の段畑を守り伝える

—景観保全機能—

NPO法人 段畑を守ろう会



段畑が広がる景観

愛媛県宇和島市遊子の水荷浦にある段畑の歴史は古く、400年前の江戸時代に、漁をするため水荷浦に住み始めた漁師が、魚以外の食料を確保するために階段状の畑を作ったのが始まりである。その後、時代の移り変わりとともに桑やサツマイモ、ジャガイモが栽培された。

昭和 30 年代、魚の養殖産業が活気を帯びると、段畑は山野に戻りつつあったが、近年、景勝地として注

目されるようになり、地元有志のメンバーが中心となって、平成 12 年に「段畑を守ろう会」を結成した。平成 19 年には NPO 法人化し、行政とも連携をとりながら、段畑の復旧やオーナー制度、ふるさとだんだん祭り、ジャガイモ焼酎の開発などに取り組んでいる。

400 年前より築き上げてきた人々の歴史と様々な人の支えによって保たれている段畑は、国の定める重要文化的景観として、国内 3 例目の選定を平成 19 年に受けている。現在の段畑の面積は 5ha まで回復し、年間 2 万人が訪れるなど、地域の活性化に一役を担っている。



うわじま
愛媛県宇和島市



段畑ライトアップ
「夕涼み会」(8月)

〔景観の保全〕

段畑を築き上げてきた人々の歴史と、多くの人の支えによって、美しい景観が保全されている。

〔土砂崩壊防止〕

石垣の段畑を修復し、農業が営まれることで、土砂崩壊を防いでいる。

〔保健休養〕

ふるさとだんだん祭り(4月)や段畑ライトアップ(8月)等が開催され、毎年多くの人が訪れている。

段畑を守ろう会が運営する特産品直売所「だんだん屋」や食事処「だんだん茶屋」では、段畑で収穫されたジャガイモやジャガイモ焼酎、目の前に広がる宇和海で採れた新鮮な海の幸を販売・提供している。



ジャガイモが作付けされている段畑
「遊子水荷浦段畑の馬鈴薯」
としてブランド化



石垣の修復の様子

※段畑を見学される際は、畑の中には入らないようお願いいたします。